

西宮市会報告

No.133

2025年
冬号

日本共産党



庄本けんじ

- 団長
- 教育こども常任委員



野口あけみ

- 幹事長
- 議会運営委員
- 総務常任委員



三好さつき

- 健康福祉常任委員
- 広報委員会副委員長

発行●日本共産党西宮市会議員団 西宮市六湛寺町10番3号(西宮市役所内)
Eメール:nmc30547@nishi.or.jp TEL:0798-35-3368 FAX:0798-22-7815 ホームページ:http://nishinomiya.jcp-giin.net/

困った時は

日本共産党

ご相談は
お気軽に ☎ 0798-35-3368

2025年 願い・実現へ

今年もがんばります!

裏金問題に揺れた2024年の国政は、衆院選挙の結果与党が少数となり、政治の新しい可能性が生まれています。

兵庫県知事選挙ではメディアやSNSの情報発信、公職選挙法のありかたも問われることとなりました。

西宮市政では、2023年10月以来何かと話題となってきた「財政構造改善」で、暮らしや福祉の事

業・施策を削減する計画素案が示され、年末にパブリックコメント募集、25年2月には計画案が公表される予定となっています。

日本共産党は、国政でも県政でも市政でも「住民が主人公」の立場で政治を動かすために、今年もがんばります。ご支援よろしくお願いいたします。

要求運動の出番!

- 学校給食費の無償
- 補聴器購入助成



自公政権与党を追い詰めた
総選挙の結果を受けて、
願い実現の運動がまさに出番の時を迎えています。

日本共産党は、
市議会でも、議員団の3人が手分けをして、
定例議会での代表質問や一般質問、常任委員会において、
学校給食の無償化、高齢者補聴器購入への助成制度創設など、
住民の要求をねばりづよく取り上げてきました。
学校給食の無償化を求める市民の運動は、
議会への請願の提出、署名活動の取り組みなど、
今も続いています。

そうした活動が、市議会の他会派にも影響を与え、
国政も動かしつつあります。
力合わせ、実現へ頑張ります。



医療や介護、
福祉の現場で起こっている
さまざまなご相談が寄せられています。
年金は上がらないのに、保険料や
窓口負担、利用料は上がるばかりです。
みなさんの声に耳を傾け、
対応できる力を身につけます。
介護や医療・保育の現場で働く
ケア労働者の実態を知り、
ともに要求実現の声を
市政にとどけることができるように
がんばります。



2024年は
市の財政問題に取り組む1年となりました。
財政分析や市当局に対する質問や批判、
提案など、ずいぶん勉強した!(つもり)

市民サービス低下は許さない!
この一念での取り組みでしたが、
「『住民の福祉の増進』の地方自治体とは
思えない仕打ちだ」との、
市の「財政構造改善計画素案」に接した
市民の声を大切に、
2025年もたたかい続けます。



核兵器廃絶の取り組みを西宮でも



ロシアによるウクライナへの侵略戦争、イスラエルによる
ガザ地区への人道危機を引き起こす野蛮な攻撃がつづき、
核兵器使用の危険を深める事態に直面しています。しか
し一方で、これを許さない世論が広がり、強められて
います。日本被団協へのノーベル平和賞の授与は
その大きな一つです。

被爆の実相を伝え、ノーモアヒバクシャ、ノーモアヒロシ
マ・ナガサキ、この声を広げる活動は、核抑止論を厳しく批判
し、追い詰める力です。2025年は、戦争終結、被爆80年
です。西宮は平和非核宣言都市で、市長を会長とする原水爆禁
止西宮市協議会も活動が続いています。核兵器のない世界、
戦争のない世界を願う世論を大きく広げましょう。



障害者福祉経費増は 歓迎すべき

野口あけみ

野口あけみ議員は市が実施中の「財政構造改善実施計画素案」に対する市民意見募集（パブリックコメント）に関わって質問。まず野口議員は、計画で障害者介護給付費などの経費が市財政を圧迫していると記述していることについて、経費増の要因が、誰もが同等の権利をというノーマライゼーション理念の浸透や国の障害者福祉制度の拡充にあることを確認し、歓迎すべきこととしました。また、障害が重いほどサービス利用料が重くなる応益負担は憲法違反とした障害者やご家族の裁判提起によって是正された等、国民の運動によるものであることも指摘しました。さらに国が補助金を抑制しているため、生命維持に必要な重度訪問介護等の提供で市に超過負担が生じており、これを改善するよう国に強く求めるべきだと追及。市はこれまでも求めてきたが、引き続き国に求めていくと答弁しました。

パブコメ、意見反映を！

次に野口議員は、パブコメ開始後1週間で100件を超える意見が寄せられているが、提出された意見に真摯に回答するとともに、計画案に反映させるよう強く求めました。

公共施設使用料 値上げ強行！

地区市民館や勤労福祉会館、公民館など、市内の公共施設使用料の値上げが強行されました。これは、財政構造改善実施計画素案の歳入増メニューの一つでもあり、2019年に策定された「西宮市施設使用料指針」によるものです。指針は利用者を受益者とし、運営コストを受益者負担率（例：公民館25%）に応じ使用料を算定し、3年に一度見直すものです。

物価高騰が止まらない大変厳しい状況のなか、公共施設使用料の値上げは文化やスポーツ、趣味、交流等々の市民の様々な活動を抑制することにつながり、行うべきではありません。



マイナ保険証一本化でなく 紙の保険証を残せ！ 保険証を残せば問題は解決！

三好さつき

2024年12月2日、政府はマイナ保険証への一本化に向けて、従来の保険証の新規発行を停止しました。三好さつき議員は、マイナ保険証制度が始まって3年経過したが、10月時点での利用率は15.67%だとして、国民の不信や不安の根強さを表しているのではないかと市の対策を聞きました。

マイナ保険証の有効期限切れについては、2025年以降の期限切れは5万8千人。3か月前から案内を通知し、東館8階に特設会場や体制を設けているとのこと。高齢者・障害者・子ども等の窓口での認証困難時には、対応マニュアルとして職員が目視で確認することや、福祉施設へ市職員が出向いて、暗証番号のいらない顔認証マイナ保険証の交付を行っているとのこと。さまざまな問題や対応について市政ニュース特集や号外などで市民へ周知することを求めました。

病院統合後の人間ドックはどうなる？

県立西宮病院と市立西宮中央病院の統合は2026年上期開院予定で工事が進んでいます。「統合再編基本計画」の中で「がん検診のうち受診医療機関が少ない乳がん、子宮頸がんの検診は統合再編病院で継続して実施する」「人間ドックについては、民間に委ねる方針」と確認されています。すでに、中央病院の健診業務は2025年度をもって終了することが決まっており、三好さつき議員は中でも昨年度の人間ドック費用助成を受けた1110名の方の受け皿が心配になりました。市は人間ドックを実施している医療機関に受け入れを打診しているが、厳しい状況とのこと。

中央病院の人間ドック廃止まで時間がありません。医師会への協力要請などあらゆる手段を持って、2025年度の早期に受け入れ機関が設定できるよう全庁あげての取り組みとするよう求めました。



選択的夫婦別姓制度意見書提案も不採択

12月議会に「選択的夫婦別姓制度の導入に向けた1日も早い民法改正を求める意見書」を党議員団は他会派議員とも協力して提案しましたが、反対が賛成をわずかに上回り、不採択という残念な結果となりました。

民法第750号において「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する」と定め、夫婦同姓が義務付けられているために生じる不利

益を解消することは、喫緊の課題です。世界で夫婦同姓を義務付けている国は日本だけであり、日本政府は国連の女性差別撤廃委員会から改正すべきと4度も勧告を受けています。国民世論も、すでに7割以上が選択的夫婦別姓制度の導入に賛成しており、国会での審議・成立が待ち望まれます。



浜脇幼稚園・浜脇保育所の統合で浜脇こども園設置 保育定員18人減、幼稚園跡地は売却

2025年4月から、浜脇幼稚園と浜脇保育所を廃止し、新たに旧浜脇保育所跡地に「西宮市立浜脇こども園」がオープンすることになる関連条例案が賛成多数で可決されました。党市議員団は反対しました。このことにより、保育定員が18人減り、西宮市の待機児童問題がさらに深刻化することになります。あわせて、休園だった用海幼稚園と南甲子園幼稚園の廃園が決定、浜脇幼稚園と合わせ3つの幼稚園がなくなることになります。

今回の条例制定は、「幼児教育・保育のあり方」という方針にもとづく、公立幼稚園と保育所の統廃合計画の第1弾。このあと、第2弾、3弾の計画を進

め、計画完了時の2030年（令和12年）度末には公立幼稚園が西宮からすべてなくなり、公立保育所は23園から13園に、保育定員は231人減ることになります。

待機児童の現状は依然深刻です。24年4月の待機児童数は、前年比で65人増、121人となりました。前年比で2倍を超えるのに、待機児童対策は無為無策。にもかかわらず、公立幼稚園・保育所の統合で、保育定員を減らすことだけは強行。こんなことが許されていいはずがありません。

